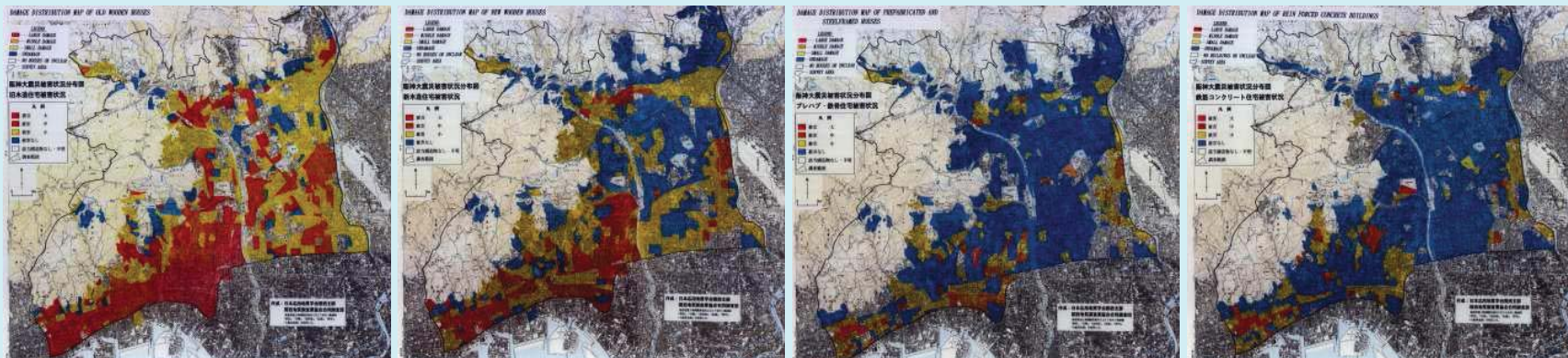


# 関西支部による社会貢献

## I 災害に伴う調査団の派遣

### 1995年 兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）

1995年1月17日の地震発生後、1月30日に関西地質調査業協会と合同の被害調査団を結成し、災害状況の把握を行いました。さらに、約2ヶ月後の3月13日には関連学会と共に一般公開の緊急合同報告会を行い、災害調査結果を広く示しました。



住宅の被害分布：左から旧木造住宅(戦前～戦後の古い時代に立てられた建物)、新木造住宅(比較的新しい時代の建物)、プレハブ・鉄骨住宅、鉄筋コンクリート住宅の被害状況



六甲山地東部の崩壊分布図



### 2007年 奈良県上北山村 国道169号 土砂崩壊



2007年1月30日の災害発生に伴い、日本地質学会等と2月6日に現地踏査を実施し、  
現地の地質状況、災害発生の要因、災害の発生過程などを調査しました。

## II 今後、関西支部が果たす役割

### (社会貢献)

開発型から保全型社会への転換（環境保全型開発へのシフト）をアピールする。

### (地学教育)

高校で地学が履修できなかつたり、仮に履修できてもあくまで入試対策用となっている場合が多く、さらに小中学校での理科教育でも地学分野が十分に教えられていない現状から、災害国日本に住んでいるものとしての地学教育（防災・減災教育）が行われるよう働きかけを行う。

### (技術者育成)

ベテラン技術者と中堅・若手技術者、さらに若手技術者同士をつなぐパイプ役となり、技術者の縦横のつながりを作り、次世代を担う技術者を育成する。

技術士等の資格取得に対する支援を行う。